

千葉県議会議員 佐倉市・酒々井町選出

入江あき子

無所属
千葉民主連合

まずは現場へ!

災害復旧・復興特別委員会の設置を提案

12月県議会最終日、台風大雨災害に対する復旧・復興費470億4200万円を盛り込んだ補正予算が可決成立。所属会派の「千葉民主の会」では、今回の災害でも東日本大震災時と同様の「復旧・復興特別委員会」の設置を提案しましたが、賛成少数で否決されてしまいました。

被災地の一日も早い復旧・復興に向けて、議会として情報共有し、必要な調査や検討、提言を行う特別委員会を開き、超党派で対応すべきです。

被災地の声を県政に届ける

12月2日、南房総地域を訪ね、館山市長や市議、現地の



館山市長との面談



佐倉市でも土砂崩れが



南房総 被災した宿泊施設

方々から沢山の生の声を聞き取りました。
各常任委員会では
●被災自治体への県・市町村職員との長期派遣
●被災住宅の屋根補修の支援
●被災で仕事を失ったパート労働者への対応
●被災地でのボランティアの活動支援
等々について、県の対応を求めました。

災害からの復旧・復興に全力を!

災害ボランティアのための「高速道路無料化」継続を要請 12/6
2020年3月末までの期間延長が実現しました

被災地に入る災害ボランティア活動の継続に欠かせない高速道路無料化は、昨年12月末までの期限となっていました。また、無料化の手続きの簡素化も12月3日に打ち切られたため、防災危機管理部長に「来年3

月末までの期間延長」「手続き簡素化の再開」を東日本高速道路（株）に求める要望書を提出。その後、県当局の迅速な働きかけにより、手続き簡素化が再開し、期間延長も実現しました。



防災危機管理部長に要望書を提出

進めます!

印旛沼の流域治水対策



12/8大和田排水機場を見学
ここで予備排水が行われています

予備排水ルールの見直しを

10月25日大雨により、印旛沼に流入する河川でも越流が生じ、住宅の浸水被害や道路冠水が生じました。その後、佐倉市や県による現地調査が行われ、鹿島川の越流については印旛沼の水位調節を含めての検証、高崎川については浸水した左岸側の暫定的な堤防高上げ（300m区間）工事が行われる予定です。

特に、印旛沼の水位を事前に低下させる「予備排水」については、6年前の浸水被害を受けて過去8回実施されてきましたが、25日大雨時は行われませんでした。予想総雨量150ミリを超えた場合に実施するルールとなっており、25日の予測はそれを下回るものでした。この予備排水ルールについては、沼を管理する（独）水資源機構や流域の市町、農業・漁業団体等との調整会議で今後見直しを検討するとのこと。

近年、異常気象による局地的な豪雨など、計画規模を超える洪水が多発しています。治水対策はハード・ソフト両面での総合治水、流域治水の視点で進めなければなりません。

私は、2013年に滋賀県を訪れ、嘉田由紀子元知事が提唱した「流域治水推進条例」学び、



引き続き、河川の拡幅等による流下能力の向上、破堤させないための堤防強化など、命を守るための現実的で費用対効果の高い治水対策を求めています。



10/10 予算・制度に対する「千葉民主の会」要望書提出



10/31 柏地域医療連携センターで在宅医療のネットワークを学ぶ



11/15 渋滞箇所の現地調査



11/26 「だれでも」「どこでも」「どんなことでも」寄り添い型で支援する中核支援センター「がじゅまる」

地域医療を守る

東千葉メディカルセンター どう存続させるか？

2014年4月山武長生夷隅保健医療圏の三次救急病院として開院。5年経った今でも多額の赤字が続き、昨年県は30億円の追加支援を行いました。一方、当初見込んでいた周辺自治体による財政負担の話も宙に浮いた状態。県立東金病院廃止後の「後医療」として同センターを機能させるという県の地域医療への責任を問いました。

県立佐原病院「病床200床未満化」で経営改善を

深刻な医師不足にもかかわらず、災害拠点病院として救急医療や在宅医療に力を入れ、地域になくってはならない同病院（241床）。病院現場から「病床利用の実態に合わせ200床未満にすることで経営改善を図りたい」との要望が一昨年から出ていました。私が議会で取りあげたことで、ようやく病院局は重い腰を上げ、検討に入りました。

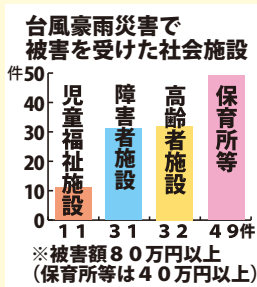
災害復旧・防災対策

台風豪雨災害で被害を受けた社会施設は？

被害額が大きいところでは4千～5千万円の施設もあり、特養では、復旧の間、利用者を他施設等で受け入れているケースもあるそうです。国による復旧事業の手続きが進められる予定ですが、国の補助金が十分充てられるよう県も被災施設に寄り添い、力になってほしいと要望しました。

非常時の電源は大丈夫か？

今回の災害で非常用電源の重要性が再認識されました。現状では、施設によっては対象にならないものもあるようで、非常用電源の確保に向けて県の積極的な支援を求めたところ、県は国に対して、高齢者や障害者施設への補助の拡充、災害拠点病院以外への新たな予算措置を要望しているとのこと。国への要望は当然だが、国で手当できない部分への県の補助を検討するよう強く求めました。



政策実現をめざして 当事者とともに活動中

千葉県のタネを守りたい 高校に「ほつ」とできる「居場所カフェ」を

種子法廃止後、イネ等の在来種を守るため「種子を守る千葉県条例制定を求める実行委員会」に参加し、生産者や消費者とともに取り組んでいます。

「高校生の食を考える会」の教員や福祉職のメンバーとともに、貧困や生きづらさを抱える高校生世代が安心して過ごせる、居場所づくりや食の支援と学習支援に取り組んでいます。



神奈川県田奈高校「ぴっかりカフェ」

調査 発言 行動 で問題解決！ 会派の連携プレーで進めます

議員の仕事は、行政のチェック、政策提言が基本です。そのため、日頃の政務調査や政策研究が欠かせません。私の政務調査で明らかになった課題や問題点について、取りあげました。

教育 特別支援学校の通学 子どもや保護者の負担を減らして！

特別支援学校の通学バスや保護者の送迎について、調査しました。その結果、乗車時間が長いこと、介助職員の数が少ないこと、送迎での保護者の負担が大きいことなどが見えてきました。

大阪府では、子どもや保護者の負担軽減のため、来年度から「重度障がい児の福祉タクシー利用」を導入する予定です。千葉県でも導入するよう県に働きかけました。今後とも当事者の声を届け、改善していきます。

環境 君津の産廃最終処分場 政務調査で判明 豪雨時に「チェックなし」

2012年第1期埋立処分場において降雨により高濃度の塩化物イオンを含む汚染水が漏出する事故が発生。その後、事業者から降雨時にパトロールや降雨量・汚染水位の記録を行うとの改善計画書が出されました。

しかし10/25 豪雨では改善計画書どおりの対応がなされていないことが判明。県の杜撰なチェック体制を指摘し、今後の厳しい指導を強く申し入れました。久留里の地下水や水道水源の安全性にかかわる重大な問題です。引き続き厳しく目を光らせていきます。

入江あき子事務所

〒285-0846 佐倉市上志津 1621-8 (2階)
電話 /043-420-8758
fax /043-420-8759
mail/groundwater.sakura@gmail.com

詳しくはこちらをご覧ください

入江あき子サイト URL/<https://irieakiko.jp/>
いのちと暮らし、守り抜く



プロフィール

1965年 宮城県仙台市生まれ
1988年 国際基督教大学(ICU) 教養学部社会科学科卒業
2003年4月～ 佐倉市議会議員
2011年4月～ 千葉県議会議員

2019年4月～現在

千葉県議会議員3期目
健康福祉常任委員会委員
会派「千葉民主の会」政策調査会副会長
千葉民主連合所属
連合千葉議員団会議所属
千葉県地方自治研究センター所属
千葉県議会地震・津波対策議員連盟所属
千葉県議会資源エネルギー問題懇話会所属
千葉県フリースクール等教育機会確保議員連盟所属
全国災害ボランティア議員連盟所属

児童虐待 救える命は必ず救う

出された課題を踏まえ、
① 柏市・船橋市による児童相談所設置のための支援、管轄区域の見直しの検討
② 一時保護所6カ所の定員増(±56名)に向けた施設改修や児童福祉司等の増員
③ 研修の充実・強化や市町村等との連携強化を行う
としています。今後、県は児童虐待対応マニュアルや「子どもを虐待から守る基本計画」を改定する予定です。すべての子どもの命が守られる環境づくりを進めていきます。



10/31 柏児童相談所視察

今年1月野田市で10歳女児が虐待死した事件を受け、県では10回の検証委員会が開かれ、11月25日に検証報告書が知事に手渡されました。県は検証結果で